



←丹後市民局ルックルックNEWSの
バックナンバーはこちら

ルックルック！

NEWS
R4.8月号



「間人みなと祭りの花火」

漁業関係者が豊漁と海の安全を祈願し弁財天を祀ったのが起源とされ、現在では地域の夏祭りとして定着しています。京丹後市内の新型コロナウイルス感染者の増加を受け、今年度は梵天丸、屋台巡業を取りやめ、納涼花火大会のみの開催となりました。

丹後町内の地域動きやトピックスをお届けする

Tango 地域 news

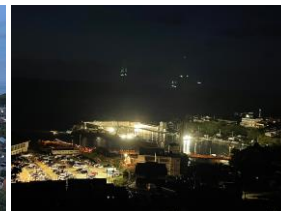
丹後の夏を彩る花火 間人みなと祭り ・ 豊栄夏花火2022

間人みなと祭り

令和4年7月23日（土）に間人みなと祭りが開催されました。京丹後市内における新型コロナウイルス感染者数の増加により、パレードや露店の出店を取りやめ、納涼花火大会のみの開催となりましたが、間人漁港が一望できる間人公園墓地から観る花火はすばらしいものでした。



花火の打ち上げを待つ間人公園墓地からの景色



展示された梵天丸



間人公園墓地から観る花火



間人公園墓地から観る花火

豊栄夏花火2022

令和4年8月23日（火）に豊栄夏花火2022が開催されました。お年寄りから子供まで楽しめ、元気を与える元気玉として花火が打ち上げられ、今回で3回目の開催となります。豊栄夏花火はクラウドファンディングを活用し、財源確保されています。



丹後町な人

（地域おこし協力隊 前川 典代）

※8月23日に行われた豊栄花火大会のトヨサカファンディング返礼品の一つとして「やどりか珈琲」珈琲ドリップバッグセットを購入することが出来ます（期限は8月31日まで）。

【前川】大村さんご家族の生き方に触れて、当たり前ではないこの一日一日に感謝の気持ち溢れてきました。人生は大きな成功を目指すものではなく、シンプルに自分らしく生きる力を積み上げていくものだと思わせて頂きました。今回も素敵なご夫婦に出会わせて頂きました。感謝——

【夏菜さん】幸せはお金や物では得られないし、誰かと比べるものでもない、どこで何をしていても幸せは自分で感じるものだと思って伝えたいですね。今がとてもしやすいです。

【豊さん】子どもたちから一日一日、力をもらっているように思います。なので「ありがとう」って伝えたい。私は親として子どものすべてを受け止める覚悟でいるから、多種多様な人たちとの出会いを重ねて、自分らしく思うように生きて欲しいです。

【豊さん】子どもたちから一日一日、力をもらっているように思います。なので「ありがとう」って伝えたい。私は親として子どものすべてを受け止める覚悟でいるから、多種多様な人たちとの出会いを重ねて、自分らしく思うように生きて欲しいです。

丹後町な人

【前川】丹後に帰る前はどのような暮らしをされていたか？

【豊さん】大学進学を機に丹後を離れ、理学療法士として大阪・奈良で勤務していました。「認知神経リハビリテーション」という分野で、脳神経に由来する「知覚・注意・判断・記憶・言語・イメー」といった機能改善に取り組んできました。患者さんの人生、思考、世界に向き合い寄り添うことが何よりも大切であり、難しくもありましたね。10年ほど前から漠然と地元へ戻ることを考えていたが、実現するとは思っていませんでした。そのころ東日本大震災が起こり「自然界と人間の命の循環」を見つめなおして、狩猟免許を取得して理学療法士の傍ら狩猟の世界にも没頭しました。畑違いのようにもみえますが、私たちが当たり前のように命をいただき、生きているプロセス（過程）は全ての人にとって共通の原点だと思っています。

【前川】なぜ珈琲ショップをしようと思われたのですか？

【豊さん】珈琲への道は、ある友人との出会いがきっかけでした。彼の主催する珈琲フェスティバルに呼ばれ、珈琲ショップのイベント出店をするようになりました。カップ一杯の珈琲から生まれるジャンルを超えた幅広い人との交流、目の前にできあがる一杯の珈琲のプロセスと向き合うことは、自然な流れで自家焙煎を始める一因となりましたね。



おおむら ゆたか
大村 豊 さん
おおむら なな
大村 夏菜 さん



自家焙煎した豆で入れたコーヒー

【前川】丹後へのUターンの決め手は何ですか？

【豊さん】3年前から脳腫瘍を患い、持病を抱えることになりました。それまでの生活を思い返せば、仕事に子育てに次から次へと駆り立てられるような日々でした。持病のために理学療法士や狩猟の仕事継続することは難しくなり、ひとつひとつ自ら望んで手にしてきたものを手放していくことになったのです。精神的に落ち込むこともありましたが、手放していくことは心のどこかすきまといふか余白ができるというような、ほっとする心地もあり、自身の生き方と向き合うことを楽にしてくれました。結果「僕が僕らしくあり、日々を過ごしたい」そんなシンプルな答えが見つかりました。それが、故郷の丹後で家族と暮らすことでした。

【前川】奄美大島出身の夏菜さんは丹後に暮らしてみてもいいですか？

【夏菜さん】奄美大島よりも過疎化が進んでいる印象を受けましたね。同世代のお友達の家と家の距離が遠くお買物も不便、もともと知り合いの少ない土地だけにさみしく感じることもありましたが、出会う人の温かさや自然の豊かさ、食べ物、丹後に暮らすことを選択して本当に良かったと思っています。

【前川】お二人が子どもたちに伝えたい

鍼灸師の資格を持つ地域おこし協力隊丹後町担当の前川典代が元気をお届けするコーナー

新コーナー！！きょうのツボと養生

第2回「労宮穴（ロウキュウケツ）」

人の体は小さな宇宙。自然のリズムに合わせて丹後の風土に即した暮らしを営み、旬の実りをいただく。日々の暮らしそのものが身体を整え健康を保つ「養生」になっています。



“胃腸と心（ココロ）の夏バテに…暑い夏は胃腸も心もバテバテ。身体の中から癒すツボ”

◎労宮穴（ロウキュウケツ）… 今年は特に暑い夏でしたね。ついつい冷たい飲み物が多くなったり、軽い食事ですましてしまったり。胃腸の疲れは心（ココロ）の元気も奪ってしまいます。季節の変化に合わせて整えていきましょう。

- ①労宮穴は、掌（たなごころ）の中央、手をグーにしたときに中指と薬指の先が当たる所
- ②反対の手の親指で労宮穴を円を描くようにゆっくり優しく指圧しましょう
- ③深い呼吸をつづけ、左右の手を1分間ずつ行います
- ④合わせて首を大きく回しほぐしてあげると、自律神経が整いスッキリしますよ

掲載団体や話題、表紙の写真を大募集！

スポーツ、サークル活動など、皆さんに広く知ってほしいニュースがある団体や個人を募集します。また、表紙の写真を募集します。掲載を希望される方は、丹後市民局までご連絡をお願いします。

【連絡先】京丹後市長公室丹後市民局（TEL0772-69-0714）

※誌面の都合上、全ての希望に沿うことはできません。ご了承ください。

丹後町の人口

	R4.7月末	前月比
0-14歳	405	△4
15-64歳	2,198	5
65歳-	2,130	4
計	4,733	5